



学校だより

第 8 号 ジャカルタ日本人学校
令和 7 年(2025 年) 10 月 31 日
発行: 校長 谷口 幸一郎
TEL: 021-745-4130

11 月の天気

日本では先週辺りから寒暖差が激しく、一気に秋の気配を感じるようになってきているようです。長い夏もやっと終わりになったと安心している人もいないのでしょうか。11 月は秋から冬へと急速に変わる時期で、冬の前兆として、冷たく強い北風—つまり**木枯らし**が吹く。春の嵐と同じく、木枯らしが何度も断続的に吹いて、季節は冬へと変わっていきます。この木枯らしが半日、長くても一日で吹き止むと、「**小春日和**」が訪れます（小春日和は春と勘違いしている人が意外と多い）。この日は風も弱いので、小春なぎとも言われています。アメリカでは「**インディアン・サマー**」、ドイツでは「**老婦人の夏**」とも呼ばれているそうです。ぽかぽかと暖かく、穏やかな日和だが、風の少ない日は大気汚染にもなりやすいのが、難点です。

また、11 月は霜の降りる月です。初霜の降りる日は場所によって異なり、日光では 10 月 1 日、札幌では 10 月 7 日、松本 16 日、秋田 27 日と 10 月で早く、米子は 11 月 13 日、福岡 17 日、東京 22 日と 11 月に霜が降りるそうです。皆さんの故郷はいかがだったでしょうか？霜は地面だけでなく、樹皮につく樹霜、積雪の表面にできる雪面霜、窓ガラスにつく窓霜のほか、建物や木の葉にも霜が降りるそうです。北は北海道から南は沖縄まで、多くの地域から来ている先生方のいる日本人学校では、先生方の出身地の様々な話を聞くことができます。気候もそうですが、方言、習慣や文化など、それぞれ違いがあってとても興味深いです。

一か月間に何冊の本を読んでいますか？

今、SMP 3 年生は入試に向けて、管理職による**模擬面接**を行っています。よくある質問で「最近読んだ本は何ですか？」と尋ねると、「最近は本を読んでいません。」と回答する子が多かったです。受験勉強が忙しく、気楽に本を手取る環境にないジャカルタではありますが、回答するときには、中学になってからでもいいので、その中で心に残った本を、思い出して、「〇〇」ですと、その理由も考えて応えられるようにしてほしいものです。何も日本語の本でなくてもいいのではないのでしょうか？以前の学校ではハードカバーの洋書を読んでいた生徒もいました。



ちなみに、1 学期の**貸出冊数**をみると、それぞれ学年で一番多い貸し出し冊数は以下のようになっています（2 学期は途中なので、学期末に集計予定）。

学 年	SD 1 年	SD2 年	SD3 年	SD4 年	SD 5 年	SD 6 年	SMP1 年	SMP2 年	SMP3 年
冊 数	8 1	6 3	4 4	1 2 8	8 7	1 1 1	2 1	1 0	3

「貸し出し冊数＝読書数」とはいきませんが、まずは、せっかくたくさんのお本のある図書館から本を借りてほしいですね。

ところで、学校の図書館、「**蔵書がどれくらいあるか、ご存じですか？**」という私も先日知ったのですが、なんと約 23,500 冊あります。職員室の上の 3 階にある図書室では、図書司書の先生、2 人（デウィ先生とラトゥナ先生）が本の整理や貸し出しの業務を行っています。保護者の皆さんも時には、足を運んでみてください。今週は読書週間です。読書週間は「文化の日」を挟んだ 2 週間のことをいいます。

JJS フェスティバル、いかがでしたか？

10月17日～18日に行われました、JJS フェスティバルですが、二学期のはじめから準備を行いました。学習の成果を発表する場として本フェスティバルを位置づけ、子供たちは放課後に時間をとれない中で、練習を積み重ねてきました。

今年のテーマは「It's time to shine」(今までの努力がここに)の下、自画自賛ではありますが、どの学年の出し物も劇も、とても**素晴らしかった**と思います。また、自分のお子さんだけでなく、他の学年の作品もご覧いただけましたでしょうか。まだの方は是非、学校の特設HPに掲載予定ですので、ご覧ください。知り合いのお子さんへも頑張ったことへの、声かけをしていただけるとありがたいです。

ご家庭に案内差し上げましたプログラム、お気づきかとは思いますが、そのデザインは子供たちから応募された作品をもとに作成されていました。たくさんの応募があり、それらについても入り口のホールに掲示してありました。どの作品も子供たちのJJSフェスティバルに向けての思いや願いのこもった作品に仕上がっていました。

JJS フェスティバルは、**たくさんの子供たちが主役になり、それを教師が支え、保護者が暖かく見守る**ことで成り立っています。どの子にとっても最高の思い出になったのではないのでしょうか。



インドネシアの学校の教員による学校訪問

本校との交流もある「**タラサルフィア学校**」の教員6名が本校を訪れて、子供たちの学習の様子を見学しました。見学後、校長室で意見交換を行いました。先生方は子供たちの**礼儀正しさと学校のきれいさ**に驚いていました。その中で、「上靴はいつも登校後に履き替えるのか」「授業中、タブレットを使うのか」「中学の英語はネイティブではなくなぜ日本人が教えるのか」「教室がきれいなのはなぜか」「どのような教科を習っているのか」「教師の指導力はどのようにして保たれているのか」など、たくさんの質問が出ました。



逆に私からは「どのような教科を教えているのか」「授業時間は何時間か」「日本の学習指導要領のようなものはあるのか」などを尋ねてみました。

タラサルフィア学校での履修教科の**違い**は、日本では教えない「**宗教**」の時間はあるが、「**生活**」「**特別活動**」「**総合的な学習の時間**」「**技術家庭**」はないそうです。授業時間については35分の連続の2時間(70分)の8時間になっているようです。

交流の相手校としてお世話になっているところではありますが、今後、教員同士が授業をとおした「授業研究」を行い、お互いの指導力向上につながるような機会を持ちましょうという提案をしました。

バオバブの花

本校には様々な植物があります。先日、教頭先生がバオバブの木を見つけ、夜まで待って花の写真を撮ってくれました。(花は夜しか咲かない？まるで月下美人) 気づいた子供もいて、登校時にバスを降りたら、木をまじまじと見ています。アフリカのサバンナで見られるようなとっくり型になるまでには相当時間がかかるそうです。



※ 保健便りお知らせしたとおり、学校感染症の児童生徒がなかなか0になりません。気をつけてください。